

## §52 aは「いくつかあるうちの1つ」

### 課題文

昨年ゴットの夏、北海道旅行中に久しぶりに旧友と出会った。

### 文法研究

#### 🔗 a friend と a friend of mine

「私の友達」は my friend ではなく **a friend of mine** と言う。なぜそんな面倒な言い方をするのかと言えば、my friend と言うと「唯一の友人」すなわち、友人がたった一人しかいないように聞こえるからだ。a friend of mine なら「何人かいる友人のうちの一人」という意味になり、友人は何人かいることになる。不定冠詞 a は「いくつかあるうちの1つ」を表すからだ。ただし、my friend を使うこともある。それは、my best friend 「親友」という場合と、my friend John 「私の友人のジョン」などと言う場合だ。my friend John のような形を文法用語で「同格」と呼ぶが、「友人すなわちジョン」ということである。この場合には「ジョン」という友人のことだけを述べているので「唯一」でもよい。また「親友」となるとそう何人もいるわけではなからう。「唯一」である可能性もある。よって、「旧友」の訳も my old friend より **an old friend (of mine)** と書く方が聞こえがよい。

#### 🔗 This is a pen. の「訳」

ここで、**This is a pen.** の意味について考えていただきたい。そもそも、日常会話でこの文を語る機会ほとんどないだろう。なぜなら、**This is ~.** は基本的には相手が~を知らない場合に使うからである。ある程度言葉が話せるようになった文明人が「ペン」も知らないということは現実には考えにくい。でも、百歩譲って、**This is a pen.** を使う数少ない機会を想定してみたい。これは筆者の実話であるが、グアムに旅行に行った際、ある友人に土産を買って行った。その土産とはペンなのだが、ふつうのペンとは違ってペンの柄の部分の先端に人の顔が彫ってあった。一見、棒の先に顔があるミニ人形に見えるのだが、実はその顔の部分がキャップになっていて、それを取るとペンとして使える代物だ。さすがに、友人も最初はこれをペンだとは見破れなかった。そんなとき、**This is a pen.** と言うのではなからうか。

では、なぜ pen の冠詞は a になるのだろうか。それは、「これ（土産にグアムから買ってきた物）もペンと呼ばれる範疇に属するもののうちの1つ」だからである。a は「いくつかあるうちの1つ」を表すのである。これを簡潔に和訳するなら、「これもペンである」が適切な日本語であろう。その昔、**This is a pen.** を「これは1本のペンです」という日本語で教わったならば、それはとんでもない間違いで、「これも」も「1本の」も誤訳であろう。そもそも a に「1つの」という意味など、原則はないのではなからうか。「1つの」ではなく「いくつかあるうちの1つ」と正しく説明しなければならぬ。ここを勘違いすると、いつまでたっても冠詞がわからないまま英訳に苦しむことになるのである。そこで、くどいほど何度でも言っておきたい。a は「いくつかあるうちの1つ」という意味である。

### 英訳例

- (A) While I was traveling in Hokkaido last summer, I ran into an old friend (of mine) I hadn't seen for ages.  
 (B) During my trip to Hokkaido last summer, I bumped into an old friend I hadn't seen for years.

### 表現研究

#### ● 昨年ゴットの夏

**last summer** が正しい。2語で副詞。in [on] last summer は不可 (⇒§86)。

#### ● ~を旅行していたとき

**When [While] I was traveling in [around] ~ / When I took a trip to ~ / When I was on holiday in ~ / During my trip to ~**などが使える。

#### ● 久しぶりに旧友に会った

英語では「長年会っていないなかった旧友と出会った」という発想にして、**I ran into an old friend I hadn't seen for ages.** とする。詳しくは§102を参照。

#### ● ~に出会う

**meet ~** はふつう「約束して会う」ことを意味するが、**happen to meet ~** は可 (⇒p.58)。**see ~** 「~と顔を合わせる」も可。**run into ~ / bump into ~** でもよい。come across ~ の目的語はふつう物や場所なのであまり適切ではない。